

第2回 蘇州大学交流研修訪問団 報告レポート集

研修日程：2012年9月6日（木）-9月27日（木） 22日間

研修先：蘇州大学海外教育学院



東洋のピサの斜塔とも称えられる蘇州の「虎丘」にて
-蘇東坡 「蘇州に遊びて虎丘に遊ばずは遺憾なり」-

兵庫県立大学





第2回蘇州大学交流研修訪問団に参加して

環境人間学部4回生 男子

今回の研修期間の間、私は一度も日本に帰りたい、中国にいるのが辛いと思ったことがありませんでした。尖閣諸島をめぐる問題で日中関係が悪化し、各地で反日デモが行われました。私たちが滞在した蘇州も日系企業が多いために、大学の近辺でもデモが行われていたようでした。現地の日本人には警戒して行動するように通告され、日本語を話すことさえ制限されて緊迫した空気が流れていました。その空気を肌で感じ、私達も不安を覚えながら生活することを強いられました。しかし、そんな時に真っ先に私達の安全を案じ、生活に不自由がないように配慮をしてくれたのが、蘇州大学の日本語学科の学生や、李先生をはじめとする中国の方でした。私は、中国にいて暴徒化した中国人の行動に怯えながら生活している。しかし、私を救ってくれようとしているのも中国人である、という現状。私は後者の方を、本当の中国人だと思いたいと感じました。いつ、どこでデモがあるという情報を耳にするとすぐに知らせてくれたり、外出する際は一緒に同行してくれたり等の、本当に心がこもった態度で接していただき、それらがどれだけ私達の心の支えになっていたかは言葉で表現しきれません。皆さんの好意がなければ、きっと日本に帰りたい等の後ろ向きな気持ちを抱いたまま研修期間を過ごしていたかもしれません。

そして、今回の研修では一つのチームとして団結することの重要性を改めて実感しました。柳条湖事件デモの前後は、行動が極端に制限され学内から一步も出ることが出来ない日が続きました。日本の国際交流センターの方や、現地の李先生と相談した結果でしたので私自身は納得がいきましたが、私にはメンバーに伝達するという役割がありました。せっかくの休日をほとんど宿舎で過ごしてもらわなければならない、という日もありましたので若干後ろめたい気持ちでメンバーの皆さんに伝達をしました。すると、帰ってきた答えは私が予想していたものと全く別なものでした。あるメンバーの方から「少し疲れていたんで、ゆっくりできてラッキーだと思っているので全然気を遣わないでください。いつもありがとうございます」と声をかけてもらいました。行動を制限してもらうことに快く了承してくれた上に、感謝の気持ちまでいただくことができずごくほっとして、じわじわと嬉しい気持ちになりました。他のメンバーの方もそれぞれ、細心の注意を払いながらもその中で中国での生活を満喫してくれたように感じ、不満や不平を何一つ言わずに本当に強い心を持ったメンバーだったように感じます。彼らと一緒に中国に滞在できたことを誇りに思います。

また、中国以外の国の方々とも友達になることができました。初めて会う人と話すことは、日本人同士でも緊張しますが勇気を出して一步踏み出して「ニイハオ」と言うことで仲良くなれるというのが留学の醍醐味だと感じました。これから、もっと中国語を勉強しつつ今回の研修で出会った友人たちと、彼たちの国で再会するのが私の夢です。最後になりましたが、青田さんをはじめとする国際交流センターの方々には本当にお世話になりました。心から感謝の気持ちを伝えたいです。ありがとうございました。

第2回蘇州大学交流研修訪問団に参加して

環境人間学部3回生 女子

今回蘇州大学の交流研修訪問団に参加して、多くの事を経験することが出来ました。

中国語学習では、担当の先生方に基本から丁寧に授業を行って頂きました。滞在中の生活に必要な言葉も学ぶことができ、非常に勉強になりました。

また、私は外出して現地の人と会話する機会があった際に、授業で学んだ言葉を使うように心がけていました。この体験はとても良い会話練習になったと思います。日本での中国語学習はどうしても読み書きが中心になってしまっていたので、中国で実践的な学習ができたことがとても嬉しかったです。

文化体験の授業では、中国武術、中国書画、中国の歴史と文化について勉強しました。私は特に中国書画の体験が印象に残っています。体験する前は日本の書道と似たようなものかなと思っていましたが、実際に授業を受けてみると筆の持ち方、筆の運び方、良いとされる手本などが日本の書道とは大きく異なっていました。面白いと思ったのは、日本の書道では伸び伸びとした力強い字が好まれるのに対して、中国の書画では繊細な字の美しさが大切にされているという点です。この点に最も驚きを感じました。

また、多くの場所を観光することができたことも嬉しかったです。有名な観光地である獅子林や寒山寺、虎丘では、先生に説明して頂きながら観光することが出来ました。反日デモの影響であまり遠くに出かけられなくなった日も、先生が地元のスーパーに連れて行って下さり、また現地の学生さんも大学近くの通りに一緒に行ってくれてとても嬉しく思いました。上海に行くことが出来なかったのは残念でしたが、現地の先生や学生さんが安全面のことを考えながら、楽しめるように気遣って下さったことに感謝しています。個人的には、現地の人々の生活を感じられるような、小さな通りを歩くことはとても嬉しかったです。

3週間の研修を通して、「もっと中国語を勉強して理解できるようになりたい」という思いがより強くなりました。中国へ行って間もない頃に現地の人のお話がほとんど聞き取れずに困ったこと、自分の言いたいことを上手く言葉にできず残念な思いをしたこと、徐々に慣れてきて、最後には簡単な受け答えが出来るようになり嬉しかったことなど、これらの経験全てが今後の中国語学習のモチベーションに繋がると感じています。中国滞在中には反日デモなどもあり、様々な人にご心配をおかけしてしまいましたが、そんな中でも貴重な体験をたくさんして、多くのことを感じ考えることができました。3週間の滞在を終えて、参加して本当に良かったと思っています。

最後に、このプログラムにご尽力いただいた方々にとっても感謝しています。貴重な機会を本当にありがとうございました。

第2回蘇州大学交流研修訪問団に参加して

環境人間学部2回生 男子

私は中国が初めての海外渡航なので、日本以外の国に行くこと自体が新鮮でした。私の周囲では今の時期に中国に渡航することに、疑問をなげかける人もいましたが、私はマスコミが報道している国家の姿は、現実とは大いかけ離れているはずという考えを持っているのでとくに気にしませんでした。

なによりも私が中国で感じたことは、急ピッチで開発がなされていく町の姿とそこで勉強している学生の姿です。蘇州は古代から栄えてきた都市ですが、近年になって工業園区になったため、都市の発展が著しい地区と昔ながらの伝統的な暮らしをしている人たちの対比が印象的でした。北には世界文化遺産でもある拙政園に斜塔のある虎丘、東には超高層ビル群が立ち並び、湖との近未来的なコントラストが印象的な街づくりの最中でした。車を走らせることたった20分ほどでここまで風景が変わってしまうのも、ここ最近になって中国が経済的に豊かになった結果なのだと思います。

そこに住む未来の中国を担う、私と同世代の生徒の勉強に対する姿勢も、日本にはないものでした。中国では9月に新学期がスタートするのですが、中国での大学2回生となるとまだ1年程度しか勉強できていないこととなります。にもかかわらず日本語学校の生徒の日本語というのは、アクセントや単語の意味間違いはあるものの、会話能力のレベルがとても高いことに驚きました。たしかに図書館の自習室も夜遅くまで開いていますし、生徒一人一人の学習意欲の高いことが、語学力の上達につながっているのだと感じました。

私の中国語は1回生のときに受講した中国語以来で、最初のころは授業についていけるか不安でしたが、先生たちの指導が丁寧だったこともあって、何とか3週間の授業を終えることができました。さらに講義における中国語の学習だけでなく、学校の外での買い物や現地の生徒との交流を通じて、学ぶ機会も多々ありました。今まで日本語の通じない環境というのに、一度も接したことがなかったので、これが一番新鮮な経験でした。

多言語の人とのコミュニケーションがこれほどまで難しいものだと、思ってもみませんでした。ここで痛感したのは英語力の重要性でした。自分の母国語が互いに異なる場合、どうしても互いが理解しえる言語が必要になってくる際に、英語は最後のコミュニケーションの決め手となりうることに初めて気づきました。

私の周囲の学生の中には海外に渡航するのを極端に嫌悪し、ある特定の国家に対するイメージをマスメディアからの受け売りで済ませている人が多くいます。しかしいくら国家が異なり、言葉や文化が違ってても、そこに住むのは人間だということです。私は中国で好ましからざる人、優しさに満ち溢れた人と出会い時には困惑し、時には感動することがありました。つまりその国のイメージというのは、事実もありますが多くは誇張されたに過ぎないのです。最後に私がこの3週間の中国研修を終えて確信したことは、どれほど互いの国の関係が悪化しても個人間の友情は、決してなくなるものではないということです。

第2回蘇州大学交流研修訪問団に参加して

環境人間学部2回生 女子

私は、蘇州大学研修訪問団に参加できて本当に良かったと、3週間を終えて心からそう思います。

私は中国に行くのは今回が初めてでした。中国に来てまず驚いたことは交通です。車の多さや、絶えずあちこちから聞こえるクラクションの音や、急に割り込んでくる車のせいで何回か急ブレーキしたことなど、日本ではあまり経験しないことなのでとても驚きました。道路を歩いていると、急に車や自転車が来て危ないので、常に周りに気をつけながら歩いていました。しかし、3週間生活していると次第に慣れてきました。2つ目に驚いたことは、店の店員です。中国の店の店員は、日本のような「お客様」という考え方がないと、この研修の前に聞いたことがありました。実際店に行って商品やおつりの渡し方を見ると、確かにそうだなあと実感しました。最近日本のコンビニに行ったのですが、逆に「店員の接客が丁寧すぎる」と感じてしまいました。しかし、その店員の接客はそれぞれの国で当たり前とされているので、異文化を感じた経験でもありました。

この研修で楽しかったこともたくさんありました。まずは授業です。ほとんど中国語や少しの英語で授業が進んでいくのでついていけるか不安でした。しかし、先生はわかりやすく教えてくれるのですぐ理解することができました。とても楽しく面白い先生だったので、毎回授業を楽しむことができました。日が経つにつれて、先生が中国語で話していることをすぐ理解できるようになっていた時は、自分でもびっくりしたしとても嬉しかったです。授業の雰囲気も良かったと思います。

2つ目は現地の学生との交流です。日本語以外で誰かと会話することが今まで無かったので、最初は緊張して言いたいことをなかなか上手く相手に伝えることができませんでした。わからない単語が出てきたら紙に書いてもらい、寮に帰ってそれらを辞書で調べての繰り返しでした。自分の中国語を理解してもらえなかったり、何回か発音を直してもらったり、自分の言語力の低さを痛感しました。しかし、授業や日頃の生活の中での勉強のおかげで、だんだん自分の中国語が相手に通じて会話できるようになっていきました。その時はとても嬉しかったです。友達と話したり遊んだりする中でたくさん文化の違いも発見できて、勉強にもなりました。友達といろんなところへ遊びに行っていて楽しかったです。これからも連絡を取って、この出会いを大切にしていきたいです。

自分で中国を見て、感じたことは非常に良い経験となりました。言語を学ぶ楽しさや、言語は努力すればそれに伴って力が付いていくことを学びました。だからもっと中国語を勉強して、また中国に行きたいです。最高の3週間を過ごすことができました。たくさんの方に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

第2回蘇州大学交流研修訪問団に参加して

環境人間学部2回生 女子

去年、この研修旅行で広州の暨南大学に行き、今までに知らなかった日本との違いや中国の文化について触れることができました。今回は蘇州の蘇州大学に行くということで、中国のことはだいぶわかっていると思いながら日本を出発しましたが、蘇州に着いた瞬間からその思いは壊されました。

まず驚いたことは交通の悪さです。道路ではクラクションが鳴り続けていて、走るスピードも速くて恐ろしいものでした。信号が赤でも右には曲がれるという日本にはない交通ルールがあります。このルールにより何度も車に気付かない時がありました。他にも、日本ではあまりない連絡ミスというものがたくさんあり、携帯を一人一人持ってない私たちには連絡を取り合うことができず、困らされたことも何度かありました。日本ではいつでも携帯で連絡できる手段があるし、それ以前に事前の連絡というものは日本では慎重にされています。もしかしたら、偶然が重なりあっただけなのかもしれませんが、日本人にとっては困るカルチャーショックでした。

また、中国とはこういう国なんだと改めて思う部分もありました。サービスの悪さです。スーパーの店員に値札のついてない靴をついている靴に取り換えに行かされたり、コンビニでは床に座って休憩している店員もいたり、料理店では携帯をさわりながら接客をするということもありました。頻繁に見たのが、ご飯を食べながら店番をするということです。日本では休憩時間にご飯を食べることが普通なので驚きでした。どこの店に行っても日本のサービスに慣れている私たちには、心遣いが少ないという印象でしたが、ファーストフードのお店でご飯を食べたときにそのまま机に残して行ってもいいという日本にはないサービスがありました。国が違うだけでこんなにも文化が変わるということを実感し、知らないで困ることが分かり、日本だけでなくほかの国の文化を理解し知ることの大切さを学びました。

今回の研修旅行では2人の先生のもと中国語の勉強をしました。先生とコミュニケーションをとるときはもちろん日本語ではなく中国語か英語です。しかし、中国語も英語もそんなには話せない私たちにはつらいものがありました。中国語は発音が難しく、四声や発音が少し違うだけでまったく伝わらなかったり、英語でもどういったいいのかわからない時もありました。そんな中でも自分たちの知っている中国語を並べて説明したり、電子辞書で調べてみたり、日本語の漢字と中国語は似ているところがあるのでとりあえず字で書いてみたりとなんとか伝えようと必死でした。なんとかして先生に伝わると本当にうれしくわかりあえるってこんなにもいい気持なのだと思います。語学というものは人とコミュニケーションをするのに本当に大切なものであり、伝わった時のうれしさを感じさせてくれるものだと感じました。

他の外国でも言葉の通じる嬉しさは得られます。ですが、私が中国語を学ぶ理由は本当に中国が好きだからです。日本では驚きの文化があったり、古い歴史的な建物があったり、温かく受け入れてくれる中国人だったり、すべてがその理由です。今回の研修旅行を通してもっと中国のことが好きになりました。また絶対に中国に行きたいです。

第2回蘇州大学交流研修訪問団に参加して

経済学部2回生 女子

私は今回の蘇州大学交流研修を、「行ってよかった」と心から言える3週間として過ごすことができました。反日デモの激化を受け、出発前、研修中、帰国後と、様々な人から心配されたこの研修でしたが、多くの親切な人々に囲まれ、勉強も生活も充実した日々を送りました。

毎日の授業は訪問団の6人が同じ教室で、2人の先生から中国語を教わりました。彼女たちは日本語をほとんど知らず、授業は中国語と英語(時には絵やジェスチャー)で進みます。最初は先生の中国語をなかなか聞きとれませんでした。日に日に言っている内容を理解できるようになっていき、ヒアリングの上達を実感しました。型にはまった授業ではなく、中国と日本の違いについてお互い教えあったり、歌詞が中国語に訳された日本の歌を教してもらったり、中国の様々な面を知ることができる授業でした。

普段の生活からも、言葉や文化を学ぶ場面が多かったです。食堂やスーパーなどで、ついた当初はまったくわからなかったやりとりも、慣れていくと身構えることなく「小銭はないよ」「ごはん少なめで」など言いたいことを言えるようになりました。言語だけでなく、水や油からして日本と異なる中華料理、あつてないような交通ルール、早口でまくしたてる店員など、習慣の違いにも次第に慣れていき、中国での生活を楽しめるようになりました。

多くの人に反日デモについて心配されましたが、大学の中においても生活に困ることはなかったし、すぐ近くに外出しても危険な目に合うことはなく、普段の生活に影響することはほぼありませんでした。ニュースでは連日日本を非難する報道がされていましたが、蘇州大学の先生方や大学内で知り合った中国人の学生、日本料理店の店員さんなど、たくさんの方がわたしたちにあたたく接してくれました。

多くの出会いの中でも、特に印象的だったのは日本語学科の学生との交流です。彼らはとても勉強熱心でユーモアにあふれ、日本に関する疑問・興味、自分の将来、語学を勉強する上での難しさなど、たくさん話題について私たちと日本語で語りました。また、私の発音のおかしいところを直してくれたり、場面に適した中国語での言い回しを教えてくれたりと、時には課外授業の先生にもなります。私にとって国境を越えた友人は彼らが初めてで、今回の研修で一番のかけがえのない出会いとなりました。

今回このように毎日を楽しんで無事に研修を終えることができたのは、日中両国のたくさんの方のご支援とご厚意とがあったからにほかなりません。本当にありがとうございました。この経験を今後の自分の生活の肥やしにして、日本でも充実した毎日を過ごしたいと思います。